

ISSN 2187-6177

日本語音声コミュニケーション 7

Japanese Speech Communication 7

2019. 3



日本語音声コミュニケーション学会
Society of Japanese Speech Communication

製作 ひつじ書房

目次

発刊のことば

英文

論文

“Drift” intonation in Modern Japanese as linguistic reflection of a general deviant exercise.

Toshiyuki SADANOBU1

和文

論文

現代日本語の「ドリフト」イントネーションについて 定延利之52

論文

「重複」の生じる原因について
—話し手の心内行動からの一考察—

程莉101

論文

ブラジル・ポルトガル語話者の日本語音声の分析

馬場良二117

論文

トルコ人日本語学習者による音読の言い直しの分析

石山友之173

論文

ベトナム人日本語学習者の日本語発話リズムのばらつき

—PVI を用いた分析—

松田真希子・吉田夏也・金村久美202

著者紹介

雑誌の案内(投稿の方法、連絡先)

編集後記

発刊のことば

日本語の音声コミュニケーションとその教育を専門に考える研究会「日本語音声コミュニケーション教育研究会」を、私たちが日本語教育学会のテーマ研究会として作ったのが2006年の4月です。7年目(2013年)に会誌を発刊し、11年目(2017年)に、日本語教育学会とは独立した学会になりました。それに伴い、研究会誌も第6号から学会誌になりました。

『日本語音声コミュニケーション』(英語名 Japanese Speech Communication)は、マルチメディアを駆使したオンラインジャーナルです。紙媒体の雑誌や本と違って、動画そのもの、音声そのものを掲載することができ、掲載されたものは世界じゅうで視聴されます。文字では書き表せないような、ちょっとした「日本的」な仕草でも、日本語を発音している被験者の口の中を撮ったMRI動画でも、日本語の教室の様子でも、世界に向けて発表することができます。

日本語の音声コミュニケーションとその教育に関する私たちの理解をさらに深め、研究を活性化していくために、本誌をご活用下さいましたら幸甚です。

2019年 3月吉日

「日本語音声コミュニケーション学会」代表幹事
定延利之

著者紹介

定延利之

京都大学大学院文学研究科教授

主要業績：『認知言語論』（大修館書店、2000）、『コミュニケーションへの言語的接近』（ひつじ書房、2016）

Toshiyuki SADANOBU, Ph D.

Professor, Graduate School of Letters, Kyoto University, Japan.

Main topic of research: Grammar of Spoken Language.

Main publications: *Ninchi Gengoron (A Cognitive Study of Language)*, Tokyo: Taishukan Shoten, 2000. *Komyunikeshon-eno Gengoteki Sekkin (A Linguistic Approach to Communication)*, Tokyo: Hituzi Syobo, 2016.

程莉

中国・武漢大学外国語言文学学院講師

主要業績：「孤立的反復の文法的理解—日本語と中国語のVN型合成的表現を例に—」『日中言語研究と日本語教育』第7号（好文出版、2014）、「中国語の並列構文における省略について—日本語と英語との対照から—」『現代中国語研究』第18号（朝日出版社、2016）、「「N + を + VN する」型重複表現について—アスペクト的な観点から—」『日本文学社会研究』第1号（白帝社、2018）

Li CHENG, Ph D.

Lecturer, School of Foreign Languages and Literature, Wuhan University, China.

Main publications: An examination of isolating repetition from a grammatical perspective: With VN Compounds in Japanese and Chinese. In *Japanese - Chinese language studies and Japanese language education*, 7 (Kobun Press, 2014). An Analysis of Ellipsis in Chinese Parallel Construction: A Contrastive Study in Japanese and English. In *A study of modern Chinese*, 18 (Asahi Press, 2016). About “N wo VN” type redundancy—From an aspect point of view. In *Japanese humanities and social studies*, 1 (Hakuteisha, 2018).

馬場良二 (ばばりょうじ)

熊本県立大学文学部日本語日本文学科教授

主たる研究分野：日本語教育

主要業績：『初級文化日本語』(文化外国語専門学校、1987)、『ジョアン・ロドリゲスの「エレガント」』(風間書房、1999)、『話してみらんね さしより！ 熊本弁』(熊本県立大学日本語教育研究室、2009)、『João Rodriguez 『Arte Grande』の成立と分析』(風間書房、2015)、訳『マクナイーマ』(トライ、2017)

Ryoji BABA, Ph D.

Professor, Faculty of Japanese Language and Literature, Prefectural University of Kumamoto, Japan.

Main topic of research: Japanese Language Education.

Main publications: *Bunka Shokyū Nihongo (Basic Japanese of Bunka*, Bunka Institute of Language, 1987), *Zyoan Rodorigesu no 'ereganto' ('Elegance' of João Rodriguez*, Kazamashobō, 1999), *Hanashite Miran Ne, Sashiyori! Kumamoto-ben (Let's Speak Kumamoto Dialect!*, Laboratory of Japanese Language Education in Prefectural University of Kumamoto, 2009), *Zyoan Rodorigesu Rodriguez 'Arte Grande' no Sēritsu to Bunseki (The Backgrounds of 'Arte Grande' by João Rodriguez and it's analyses*, Kazamashobō, 2015), *MACUNAIMA* (translation, TRY, 2017).

石山友之 (いしやまともゆき)

東京福祉大学教育学部助教

主なテーマ：日本語教育、音声学、音韻論

メールアドレス：ishiyamatomoyuki86@gmail.com

主要業績：「トルコ人日本語学習者の音声と課題－『Vます？』型疑問文を例に」『熊本県立大学文学研究科論集』11: 1-24(熊本県立大学文学研究科、2018)、「等時性に焦点を当てたトルコ人学習者による日本語歌唱音声と音読音声の分析」『日本語音声コミュニケーション』6: 1-34(日本語音声コミュニケーション学会、2018)、『「学習者中心」を意識した『教材開発』の活動」『ヨーロッパ日本語教育』21: 429-435.(ヨーロッパ日本語教師会、2017)

Tomoyuki ISHIYAMA

Lecturer, Tokyo University of Social Welfare.

Main topic of research: Japanese Language Education, Phonetics, Phonology

Main publications: Problems of Turkish learners' Japanese pronunciation: Focused on "V-masu?" sentence In *The Journal of the Graduate School of Language and Literature* 11: 1-24 (Graduate school of language and literature, Prefectural University of Kumamoto, 2018), Analysis of Isochrony in reading aloud and singing voice by Turkish learners of Japanese In *Japanese Speech Communication* 6: 1-34 (Society of Japanese Speech Communication, 2018), Learner-Centered Activity of Material Design In *Japanese Language Education in Europe*, 21:429-435 (The Association of Japanese Teachers in Europe, 2017).

松田真希子

金沢大学准教授

Makiko MATSUDA

Associate Professor, Kanazawa University

Main publications: MATSUDA Makiko & ISHIKAWA Yuka. Development of a L2 Japanese lexical syllabus for students majoring in science and engineering. *Digital Resources for Learning Japanese*, 71-102 (2018).

吉田夏也

国立国語研究所

主な論文：吉田夏也・白勢彩子「日本語学習者の語頭上げ音調の実態」『東京学芸大学紀要 人文社会科学系 I』第 69 集 (2018)

Natsuya YOSHIDA

National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)

金村久美

名古屋経済大学経営学部准教授

主な研究テーマ：音声学、日本語教育、日本語音声習得

主な論文：「より教えやすい日本語のリズム・アクセント指導法の開発と改善」『人文科学論集』98: 1-19 (名古屋経済大学人文科学研究会、2019)、「ベトナム語と日本語の音声における喉頭調節」『日本語音声コミュニケーション』5: 1-34 (共著、日本語音声コミュニケーション教育研究会、2017)、「ベトナム語母語話者による日本語の発音の音調上の特徴」『ことばの科学』12: 73-91 (名古屋大学言語文化部 言語文化研究会、1999)。

Kumi KANAMURA, Ph.D.

Associate Professor, Nagoya University of Economics

Main topics of research: Phonetics, Japanese as second language, Speech Acquisition of Japanese.

Main publications: Developing simple methods for teaching Japanese pronunciation: mora rhythm and pitch accent. In *The Journal of Science of Culture and Humanities*, 98:1-19 (The Society of Culture and Humanities, Nagoya University of Economics, 2019). Laryngeal control in Vietnamese and Japanese speech. In *Japanese Speech communication*, 5:1-34 (co-author, Society of Japanese Speech Communication, 2017). Prosodic features in Japanese speech by native Vietnamese speakers. In *Studia Linguistica*, 12:73-91 (Nagoya Daigaku Gengo Bunka Kenkyukai, 1999).

雑誌の案内(投稿の方法、連絡先)

『日本語音声コミュニケーション』(Japanese Speech Communication)は、日本語音声コミュニケーション学会の会員であれば、どなたでも投稿できます。(但し、会員以外からの投稿も査読委員会の判断で認めることがあります。)

研究会の「入会案内」については、下記の web ページをご参照下さい。

<http://www.speech-data.jp/nihonsei/apply.html>

「投稿要領」と「査読委員会会則」については、下記の web ページをご参照下さい。

<http://www.speech-data.jp/nihonsei/seika.html>

「査読委員会名簿」については、下記の web ページをご参照下さい。

<http://www.speech-data.jp/nihonsei/summary.html>

その他のお問い合わせは、下記までお願い致します。

定延利之(さだのぶとしゆき)(代表幹事)

sadanobu.toshiyuki.3x[at]kyoto-u.ac.jp ([at]の部分を@に変えてご送信下さい。)

〒 606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科

編集後記

多分、私が、はじめて、お金をもらって外国人に日本語を教えたのは、大学院の修士課程1年のときだったと思います。駒場にある留学生会館で、学習者は、^{くちなし}梔子色の僧衣を身にした、スリランカからのお坊さんでした。テキストは、*Intensive Course in Japanese - intermediate* です。あまりに優秀で、教えることがなく、困ったのをおぼえています。

あれから40年以上がすぎました。

1980年代には、新宿の日本語学校にいました。学期ごとにクラスが増えていきました。学生の多くは台湾人で、台湾人の友人が「日本の日本語教育は、台湾人のための日本語教育だ」と言っていました。1990年代に入ると、日本語学校も大学も、中国人学生が増え、そして、気が付いたら、ベトナム人とネパール人です。

政府の旗振りの下、母国の日本語学校で勉学に励み、日本の制度によって働く若者が増えました。40年前には、想像もしていませんでした。でも、1983年に中曽根首相が提唱した「留学生受入れ10万人計画」は、日本の労働力不足解消のためだったようです。

私の所属する学科を、ほぼ10年ぶりに私費留学生が受験しました。韓国人と中国人です。二人がともにネイティブほどに上手に話し、古典もわかり、文学史の知識もあります。30年前だったら考えられなかった。あれほど優秀な学生は、地方の公立大学など眼中にありませんでした。

ネットの普及で、学習者の日本語力は格段に上がりました。それに、若者の価値観が、地球規模で多様化したのだと思います。

時代が、変わった。時代は、変わります。

日本語教育の世界はどうなり、日本語教師には何が降りかかるでしょう。

ご投稿を、お待ちしております。

馬場良二(査読委員長)



日本語音声コミュニケーション学会
Society of Japanese Speech Communication

日本語音声コミュニケーション 7

Japanese Speech Communication 7

インタラクティブ PDF 版

発行 2019年3月29日 初版1刷
著者 日本語音声コミュニケーション学会
<http://www.speech-data.jp/nihonsei/index.html>
発行・製作 株式会社 ひつじ書房
〒112-0011 東京都文京区千石 2-1-2 大和ビル 2F
Tel.03-5319-4916 Fax.03-5319-4917
郵便振替 00120-8-142852
toiawase@hituzi.co.jp <http://www.hituzi.co.jp/>

ISSN 2187-6177